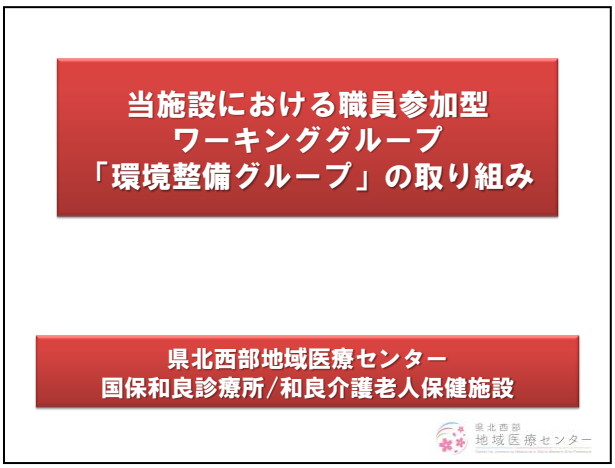
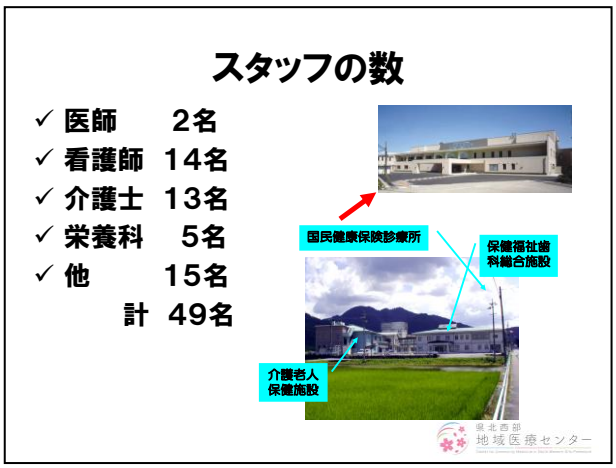
演題 191	当施設における職員参加型ワークショップ -環境整備グループの取り組み-
	発　表　者　蒲　恵子（岐阜県　県北西部地域医療センター国保和良診療所[1]） 共同研究者　大楠　充彦[1]，川尻　成丈[1]，大野　裕香[1]，島田　紫香[1]， 川尻　佐知子[1]，山田　義之[1]，廣瀬　英生[1]，後藤　忠雄[2] （県北西部地域医療センター国保白鳥病院[2]）



当診療所のある郡上市和良町は岐阜県の中央部に位置しています。和良町は人口約 1730 人、世帯数約７００戸､65 歳以上 800 人､高齢化率 44. 4%､出生数年間 1～2 人の過疎地です。

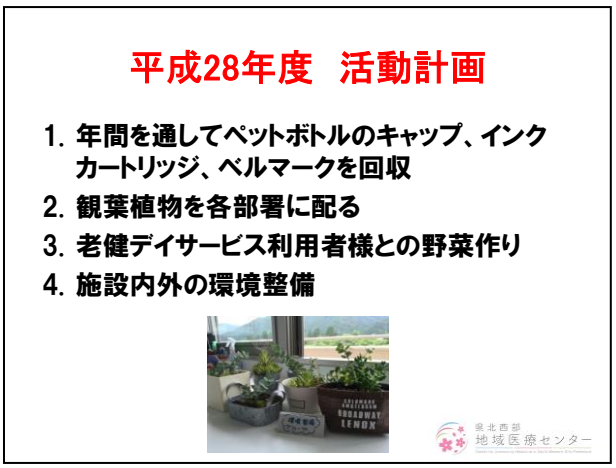


当施設は国民健康保険診療所と介護老人保健施設が併設しています。
施設のスタッフ数は、医師２名、看護師１４名、介護士１３名、栄養科５名その他コメデイカルや事務職員等計４９名で構成されております。そのスタッフが４つのワーキンググループに分かれ活動をしています。

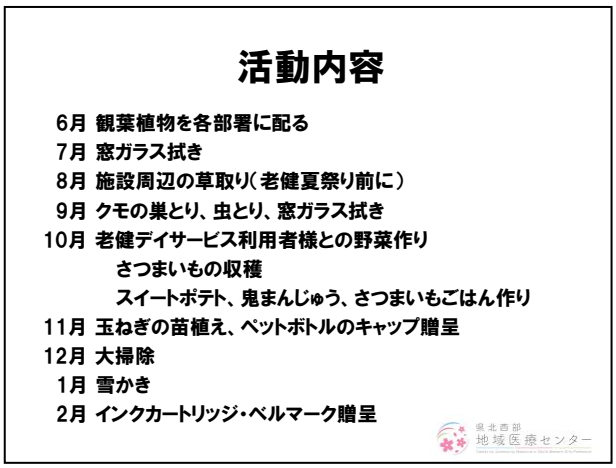
４つ のワーキンググループの中で、「業務改善グループ」は日頃の業務の見直しを行っています。「広報グループ」は毎月の広報紙の発行や壁新聞（職員の紹介等）を主な活動としています。又「教

育研修グループ」は職員の資質向上や職場のコミュニケーションを図るために研修やレクリエーションを行います。今回、紹介する「環境整備グループ」は施設内の環境整備や美化運動を目的として活動しています。このようなワーキンググループの活動は日頃の業務としての位置づけはなく、職員の自主的な活動として取り組んでいます。各グループは老健および診療所の各部署にとらわれない横断的なメンバー構成で、各グループは９名から11名で活動しています。また、メンバーが固定されないように３年ごとに入れ替えをおこなっています。

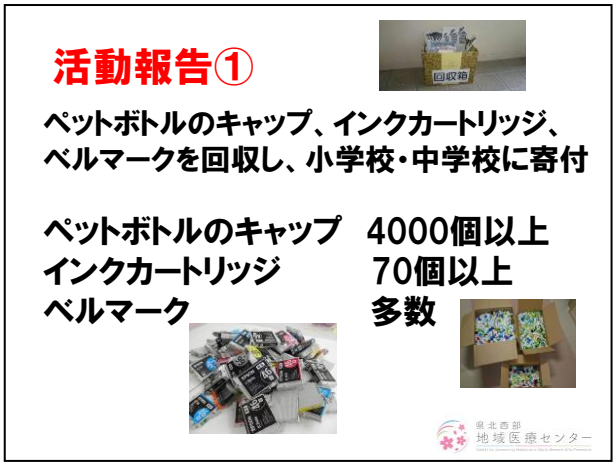
今回発表する平成２８年度の「環境整備グループ」は介護士２名、看護師３名、コメディカル検査技師１名、栄養科１名、診療所事務３名、老健事務１名の１１名で構成され「みんなでつくる環境整備」を活動目標として取り組みました。



活動計画は、1．年間を通してペットボトルのキャップ、インクカートリッジ、ベルマークの回収を行う　２．観葉植物を各部署に配る　３．老健デイサービス利用者様との野菜作りを行う　４．施設内外の環境整備を行う　こととしました。



主な活動内容は６月観葉植物を配布、７月ガラス拭き、８月草取り、９月くもの巣とり、１０月野菜作り、１１月玉ねぎの苗植えとキャップの贈呈、１２月大掃除、１月雪かき、２月インクカートリッジなどの贈呈を計画し全職員と共に行いました。

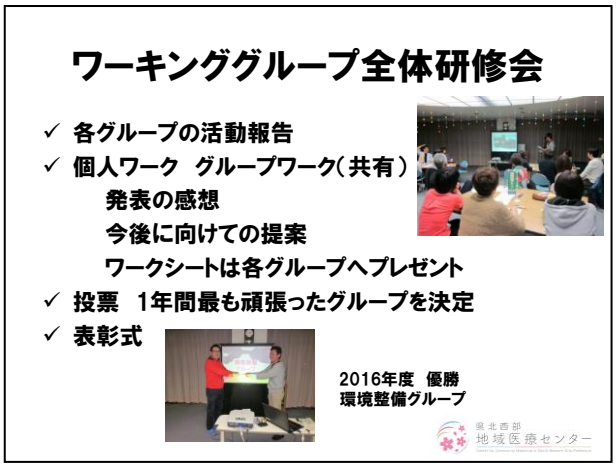


その中から主な活動報告をします。今年度より、ペットボトルのキャップ、インクカートリッジ、ベルマークなどの資源ゴミの回収・エコ活動、福祉への貢献を基盤に職員玄関に回収箱を設置しスタッフへの意識づけを促しました。結果ペットボトルのキャップ４０００個以上、インクカートリッジ７０個、ベルマークを多数集めることが出来ました。

インクカートリッジとベルマークは和良小学校へ、ペットボトルキャップは郡上東中学校へ、児童や生徒がディサービスを慰問された際に渡しました。こうしたエコ活動を兼ね地域への繋がりを大切にした活動が出来ました。

次に５月から診療所窓口や老健窓口など多数の場所に観葉植物の設置をはじめました。植物の種類や容器は多種多様とし、患者様、利用者様、職員の心身が癒され、良い接遇へとつながりました。次に老健利用者様と一緒に施設の裏の花壇を利用し、さつまいもやたまねぎを作りました。10 月にはさつまいもを収穫し、スイートポテト、鬼まんじゅう、さつまいもごはんなどを一緒に作り食事やおやつの時食べていただきました。玉ねぎは夏祭りのカレーライスに使用しました。利用者様のいつもとちがう生き生きとした姿が見ることが出来ました。

他のワーキンググループの活動も少し紹介します。業務改善グループでは、各部署で写真を撮り、氏名・仕事に対する思いを一言添え、手作りで職員紹介を作成し、施設内に掲示しました。教育研修グループでは、救急救命講習会などの学習会や各種スポーツ、フラワーアレンジメントの創作などを行いました。広報グループではホームページの管理、広報誌を毎月発行、壁新聞作りなどを行いました。



毎年３月には全職員が集まりワーキンググループ活動報告の研修会を行っています。各グループの１年間の活動報告を聞いて、個人ワーク、その後グループワークを行い、感想や今後に向けての提案などの前向きな意見を出し合っています。そして投票で１番がんばったで賞グループを決定し表彰式があります。前年度優勝は、環境整備グループでした。

ワーキングループ活動を通して

- ✓ 職員が自主的に、教育活動、環境整備、業務改善、広報活動に取り組めた
- ✓ 普段交わることが少ない他の職種とも連携をすることができた
- ✓ 何より飲み会をたくさんすることができた
  （場合によっては旅行も）

報告しましたように、普段交わることが少ない他の職種とも連携を取りながら、職員が自主的にワーキング活動に取り組みコミュニケーションの輪も広がっています。今後もさらに活発にこの活動を継続したいと考えています。ご清聴ありがとうございました。